

国語科 学習指導案

●●市立●●小学校
指導者 ●●●●

1. 日 時 令和5年 2月●日(●) 第●時限
2. 場 所 第3学年●組教室
3. 学 年・組 第3学年●組 (まる名)
4. 単 元 名 登場人物について、話し合おう (読むこと)
5. 教 材 名 「モチモチの木」 (光村図書)

6. 単元目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。
[知識及び技能](1)オ
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
[思考力、判断力、表現力等]C(1)エ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等]C(1)オ
- (4) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。
[思考力、判断力、表現力等]C(1)カ
- (5) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

7. 言語活動 登場人物について感じたことや考えたことを伝え合う

8. 教材観

「モチモチの木」は、臆病な豆太が大好きなじさまのために、真っ暗な山道を勇気をふりしぼって医者を呼びに行ったことで、灯がともったモチモチの木を見ることができたという物語である。「モチモチの木」は、小見出しの付いた五つの場面に分けられていて、特に緊張感のあるクライマックスは読み手を引き付ける。特に、主人公の豆太は児童にとって寄り添いやすく魅力的な人物として描かれている。したがって、児童は自然と人物に着目して読み進めていくことになるだろう。

「モチモチの木」の大きな特徴の一つとして、語り手の語りがある。登場人物は常に語り手の見方や考え方を通して、語られる。この語り手の語りに着目したり、豆太の行動や会話文に着目したりする中で、児童は豆太像を描いていく。その捉え方については、意見が分かれることもあるだろう。そのため、自分の解釈を友だちと交流することで読む活動が深まり、伝え合うことに必然性が生じる。

また、挿絵(切り絵)も特徴的である。夜のモチモチの木の恐ろしさや、じさまの胸に抱かれる豆太の表情など、挿絵から伝わるメッセージも多く、子どもたちの読みを補うものになっている。

このように、「モチモチの木」は、登場人物の気持ちの変化や性格について場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像したり、感じ方などの違いに気付いたりする学習活動に適した教材であると言える。

3年生の教科書には、「読むこと」の領域の教材として、「きつつきの商売」「まいごのかぎ」「ちいちゃんのかげおくり」「三年とうげ」が掲載されている。児童は其中で、場面の移り変わりや展開に注意しながら読むという学習を進めてきた。本単元の学習もそれら螺旋的な学習の延長線上に位置づくと考え。これまでの既習事項も振り返りながら、本単元においては、魅力的な主人公豆太に十分にスポットを当てて物語を味わわせたい。

9. 児童観

本単元においては、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結びつけて具体的に想像することができる」、「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる」を重点的に指導する。先の「教材観」にも記したように、児童はこれらの事項についても他教材で螺旋的に学んできている。これまでの学習を振り返ると、「考えの形成」につまずきが見られる児童が多いように感じる。それは、「精査・解釈」の過程において、丁寧な学習活動を設定することができていなかったからかもしれない。本単元においては、「精査・解釈」の過程を丁寧にたどり、場面の展開をとらえる力、気持ちの変化を叙述から読み取る力を定着させるとともに、人物像を捉える力を身につけることをめざしたい。

10. 指導観

本単元では、「登場人物について感じたことや考えたことを伝え合う」という言語活動を設定する。第1時から6時は物語の精読を通して（構造と内容の把握、精査・解釈）、考えを形成するための材料を集める時間、第7時はこれまでの豆太を振り返り整理し、考えをまとめる時間（考えの形成）、第8時は自分の考えをまとめたものを基に、友だちと共有する時間（共有）とする。単元を通して、学習過程を丁寧に辿れるようにする。

まず、第1時には、初めて「モチモチの木」を読み、初発の感想を書く。その際に、単元の終わりで話し合う活動と同じ、「豆太はどんな子？」について考えさせる。

第2～6時には、初発の感想の違いに着目しながら、登場人物の性格や気持ちを読み取っていく。「おくびょう豆太」の場面と「やい、木い」の場面では、豆太の性格について、じさまや語り手がどのように語っているか、豆太はじさまからどのように見られているかという観点から捉えていく。また、豆太の行動や会話、様子を場面ごとに整理していくことで、性格や気持ちを捉えていく。「霜月二十日のぼん」の場面、「豆太は見た」の場面では、豆太の言動の違いを比較することで、臆病な姿と勇気ある姿を明確に読み取り、その差異を焦点化する。

第7時は本時とする。この時間は「弱虫でも、やさしけりゃ」の場面を足掛かりに、今まで学習してきた豆太を振り返り、「豆太は変わった？変わっていない？」について、自分の考えをもてるようにする。これまで分割して読み進めてきた場面を比べたりつなげたりしながら、豆太の気もちや性格について考えさせたい。「変わった」「変わっていない」どちらを選択するかということよりも、なぜそのように考えたのかという点を大切に扱う。

第8時には、「豆太はどんな子？」について自分の考えを交流し、まとめていく時間とする。また、作者である斎藤隆介の絵本（「花さき山」「ふき」「かみなりむすめ」）から、児童自身が主人公についてまとめたい本を選ぶ。

第9～11時には、斎藤隆介の絵本を自分で読み、主人公についてまとめていく。その際、ICT端末を活用する。思考を構造化するのに効果的だからである。児童たちは、まず絵本の本文から主人公の行動や会話・様子を見付け、ICT端末に書き込んでいく。この時は、ただ絵本の文章から抜き出しているにすぎない。次に主人公はどのような人物なのだろうかと書き込んだ言葉を見返しながら言葉を並べ替えたり、似たような言葉をグループ分けしたりしながら人物像を組み立てていく。このような思考をたどることで、自分の考えが整理されていく。このように、自分の考えの根拠もICT端末に記録しながら、人物像に迫ることができると考える。また、ICT端末は交流する時のメモとして活用することもできる。

第12時には、自身がまとめた登場人物について交流する。この活動においては、考えを整理した「発表ノート」を活用しながら自分の考えを再構築させる。文章の構造や内容を把握し、精査・解釈することを通して、より確かな自分自身の考えがもてるようにしたい。また、単元の学習を振り返りながら、育まれた資質・能力について確認することで、国語の力をメタ認知できるようにしたい。

11. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 C(1)エ ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 C(1)オ ③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 C(1)カ	登場人物の性格について、場面の移り変わりと結び付けながら粘り強く想像し、学習の見通しをもって、感じたことや考えたことを友だちと伝え合おうとしている。

12. 単元の指導と評価計画(全10時間 本時9/10)

時	学習内容	学習評価 (◎記録に残す評価 ○指導に活かす評価)			
		知技	思判表	主体	評価規準・評価方法等
1	●初発の感想を書く。 ・教科書 P121 の挿絵、題名を見て、感じたことや思ったことを交流する。 ・範読を聞き、ノートに感想を書く。 ・昔の言葉等、意味の分かりにくい言葉の意味を確認する。 ・単元の学習活動の見通しをもつ。				<行動観察・ノート>
2 3	●単元のめあてやゴール、学習計画を確認する。 ・初発の感想を交流する。 ・疑問に思ったことを確認する。 ●「おくびょう豆太」の場面を読み、豆太の気持ちや性格について自分の考えをまとめる。 ・豆太の行動や会話、様子や語り手とじさまが豆太について語る言葉をノートに記録する。 ・それを基に、「豆太は～子」とノートにまとめる。 ●「やい、木い」の場面を読み、豆太の気持ちや性格について自分の考えをまとめる。 ・豆太の行動や会話、様子や語り手とじさまが豆太について語る言葉をノートに記録する。 ・それを基に、「豆太は～子」とノートにまとめる。	○		○	<行動観察・ノート>
4	●「霜月二十日のばん」の場面を読み、豆太の気持ちや性格について自分の考えをまとめる。 ・豆太の行動や会話、様子についてノートに記録する。		①○ ②○		

	・それを基に、「豆太は～子」とノートにまとめる。				
5 6	●「豆太は見た」を読み、豆太の気持ちや性格について自分の考えをまとめる。 精査・解釈、考えの形成 ・豆太の行動や会話、様子についてノートに記録する。 ・それを基に、「豆太は～子」とノートにまとめる。		①◎		豆太の様子や行動、気持ちの変化について想像しているかの確認。 【思・判・表①】<行動観察・ノート>
7 (本時)	●「弱虫でも、やさしけりゃ」を読み、豆太の気持ちや性格について自分の考えをまとめる。 精査・解釈、考えの形成 ・豆太の行動や会話、様子についてノートに記録する。 ・「豆太は変わった？変わっていない？」について意見を交流する。 ・それをふまえて、「豆太は～子」とノートにまとめる。		②◎	◎	今まで学習した豆太の様子や行動、気持ちの変化について振り返り、自分の感想や考えを記述しているかの確認。 【思・判・表②】<行動観察・ノート> 豆太について場面の内容と結び付けながら粘り強く想像し、感じたことや考えたことを友だちに伝え合おうとしているかの確認。 【主】<行動観察・ノート>
8	●豆太の気持ちや性格について考えたことを交流する。 共有 ・豆太の気持ちや性格についてまとめたことを発表し合う。 ・授業者が用意した斎藤隆介の3冊の絵本を読み、詳しく考えてみたい主人公を選ぶ。	◎	③◎		豆太の人物像を表す語句について着目し、ノートに書いているかの確認。 【知・技】<行動観察・ノート> 友だちと感じたことや考えたことを共有し、感じ方に違いがあることに気づき、自分の考えをまとめ直しているかの確認。 【思・判・表③】<行動観察・ノート>
9 11	●自分が選んだ主人公の気持ちや性格について考えたことをまとめる。(単元のまとめ) ・選んだ絵本の主人公の行動や会話、様子について、ICT 端末にまとめる。 ・それを基に、「主人公は～子」と ICT 端末にまとめる。		①◎ ②◎	○	主人公の様子や行動、気持ちの変化について想像しているかの確認。 【思・判・表①】<行動観察・ICT 端末> 文章を読んで理解したことに基づいて、既習内容と結び付けながら、自分の感想や考えを記述しているかの確認。

					【思・判・表②】<行動観察・ICT 端末>
12	●ICT 端末を用いて、選んだ人物の気持ちや性格について考えたことを交流する。 ・同じ主人公を選んだグループで交流する。 ・交流後、再度主人公について考えを ICT 端末に書く。 ●単元の振り返りをする。 ～振り返りのポイント～ ・想像した豆太や主人公の気持ちや性格 ・豆太や主人公の気持ちや性格について、友だちと交流して思ったことや感じたこと ・今後、物語を読む時に大切にしたいことや気をつけたいこと		③◎	◎	友だちと感じたことや考えたことを共有し、感じ方に違いがあることに気づき、自分の考えをまとめ直しているかの確認。 【思・判・表③】<行動観察・ICT 端末> 主人公について、感じたことや考えたことを友だちに伝え合おうとしているかの確認。 【主】<行動観察・ノート>

13. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・文章を読んで、豆太の気持ちや性格について、感想や考えをもつことができる。
- ・豆太の気持ちや性格について、感じたことや考えたことを友だちと伝え合おうとする。

(2) 本時の評価規準

- ・文章を読んで、豆太の気持ちや性格について、感想や考えをもっている。【思・判・表②】
- ・豆太の気持ちや性格について、感じたことや考えたことを友だちと伝え合おうとしている。【主】

(3) 本時の判断基準

十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C) への支援
文章を読んで理解したことに基づいて、既存の知識や内容と結び付けて、豆太の気持ちや性格について自分の考えをもっている。 【思・判・表②】 豆太の気持ちや性格について粘り強く想像し、感じたことや考えたことを進んで友だちと伝え合おうとしている。 【主】	文章を読んで理解したことについて、自分の体験や場面の内容と結び付けて、豆太の気持ちや性格について感想や考えをもっている。 【思・判・表②】 豆太の気持ちや性格について粘り強く想像し、感じたことや考えたことを友だちと伝え合おうとしている。 【主】	豆太の行動や会話、様子を叙述から豆太の気持ちや性格について考えるよう促す。 ノートを見て振り返りながら考えるよう促す。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
5	①前時までの学習を振り返る。	・学習マップを使って、学習を振り返る。	
10	②「弱虫でも、やさしけりゃ」の場面の豆太の気持ちや性格について考える。 ・「弱虫でも、やさしけりゃ」の範読を聞く。 ・一人で黙読する。 ・豆太の気持ちや性格について、ノートにまとめる。	・豆太の行動や会話、様子について豆太が分かるところについて印を入れさせる。 ・時間内であれば、何回も読み直したり、印を入れたりするよう促す。	
20	③豆太の変容について考える。		
めあて 結局、「豆太は変わった？変わってない？」について考えたことをまとめよう。			
	・本時のめあてを確認する。 ・「豆太は変わった？変わってない？」について考えるために、ICT 端末からシート①を選ぶ。 ・シート①を教師用 ICT 端末に提出する。 ・スクリーンを見て、どの考えが多いか確認する。 ・スクリーンを見ながら考えを交流する。	・児童が考えやすいように三つの選択肢(変わった・どちらでもない・変わってない)を設定する。 ・どの意見(変わった・どちらでもない・変わってない)が多いか、全体で共有する時に、分かりやすいよう三色のシートを学習支援ソフトのフォルダに用意しておく。 ・児童から出てきた意見を参考にしたり、今までの豆太を見返したりしながら考えるよう促す。 ・時間があれば理由も書くよう促す。 ・教師用 ICT 端末に提出された全員のシート①をスクリーンに映し、共有する。 ・児童が発表した本文を全員で確認するよう促す。 ・「モチモチの木」の絵本に出てくる挿絵(山の神様の祭りを見る前)と教科書の最後のページの挿絵を比べさせる。	三色のシート①② 「豆太は…」 ・青…変わった ・黄…どちらともいえない ・赤…変わってない

10	・再度豆太が変わったか、変わっていないかについて考える。 ・ICT 端末からシート②を選ぶ。 ・シート②を教師用 ICT 端末に提出する。 ・スクリーンを見て、どの考えが多いか確認する。 ・スクリーンを見ながら考えを交流する。 ④本時の学習を振り返る。 ・本時の振り返りとして、豆太について考えたことをノートにまとめる。 ・次時の見通しをもつ。	・変容が見られた児童を把握しておく。 ・教師用 ICT 端末に提出された全員のシート②をスクリーンに映し、共有する。 ・考えが変容した児童に理由を発表させる。 ・全員で本文を確認するよう促す。 ・「豆太は、〇〇子」とまとめさせることで、考えた豆太像を表出させる。 ・状況を見て「豆太は〇〇だけど、〇〇子」という書き方をしてもいいことを伝える。 ・根拠、考え、理由がかき分けられるように工夫する。 ・次時は考えを交流することを伝える。	主体的に学習に取り組む態度 (行動観察・ノート) 【記録に残す評価】 思考・判断・表現② (行動観察・ノート) 【記録に残す評価】 思考・判断・表現② (行動観察・ノート) 【記録に残す評価】
----	--	---	--

(5) 板書計画

スクリーン

(児童の ICT 端末の画面を映す)

④ 結局、「豆太は変わった？変わってない？」について考えたことをまとめよう。

おくびよう

しよんべんにじさまをおこしたとき。

「じさまあ。」

P133
の挿絵

勇気がある

「勇気のある子どもだったんだからな。」

「お前は、山の神様の祭りを見たんだ。」

モチモチの木

さいとう りゅうすけ